



界限性が紡ぐ駅前広場

－名古屋駅西側駅前広場空間形成－

1. 現在のターミナル駅

多くの人が日常的に利用するターミナル駅は通勤、通学、乗り換えといった機能が優先され、そこに滞在する時間よりも効率的な乗り換えが求められる。しかし、本来ターミナル駅は都市と人をつなぐ場所である。通過点として扱われてきたターミナル駅を「滞在空間」へと変換することで駅そのものが都市の居場所として機能する在り方を提案する。

2. 界限性の残っている名古屋駅西側

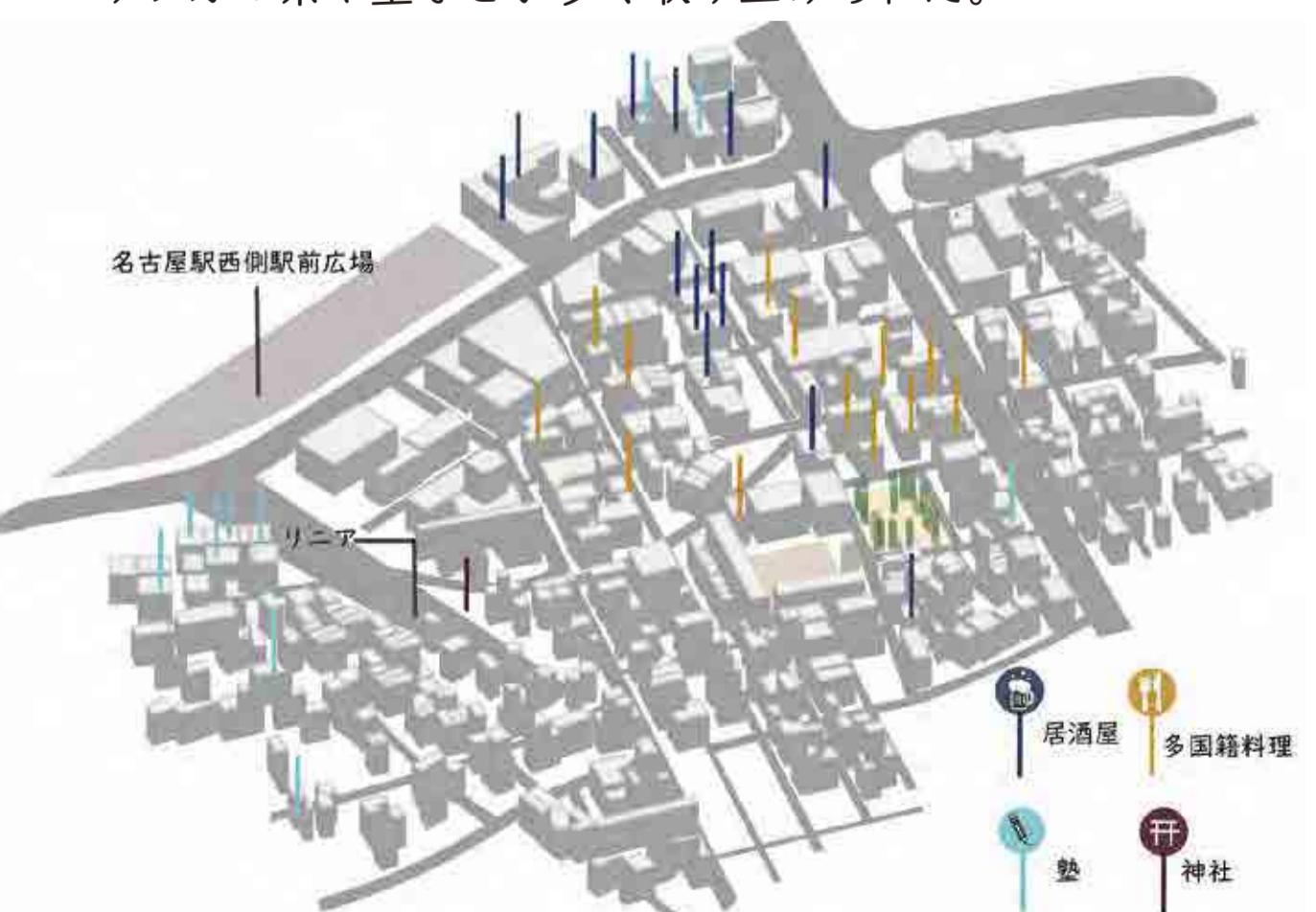
本計画では名古屋駅西側を対象とした。オフィスビルなどの再開発が進み、駅の表玄関として機能してきた東側に対し、西側のまちは**界限性**が残っており、生活の空気が感じられるが、駅前広場にまでは、**界限性**がじみ出でていないことが課題である。

*「界限性」の定義
界限は「地区」や「通り」といったフィジカルに規定された空間ではなく経験に基づく「多様で賑やかで、人を惹きつける場所」という意味で使用している。
(建築大辞典第2版 彰国社 1993.6)



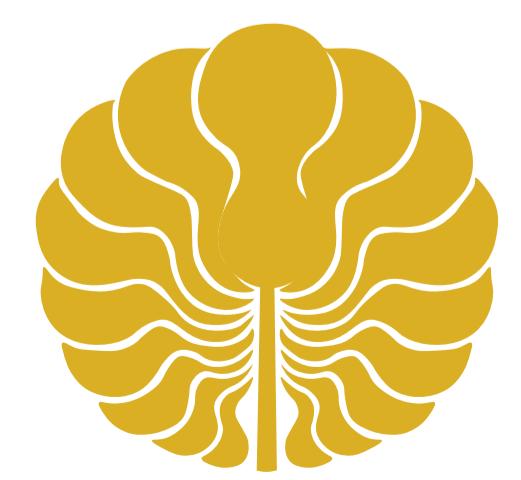
3. 敷地調査

課題解決のため、敷地調査を行い、様々な属性や特徴が取り上げられた。西側はアジア系の飲食店や居酒屋街、サブカル系や塾などが多く取り上げられた。



4. 西側の歴史

敷地調査から地元の人々の暮らしの気配が強く残っていた。そこから生まれる「名古屋らしさ」を基盤とする。その「名古屋らしさ」が名古屋駅西側にも空間として感じられるようにデザインモチーフと繋げる。名古屋駅西側は豊臣秀吉の生誕地の場所であることから千成瓢箪を取り入れる。また現在も残っている懐かしい雰囲気を活かす。



豊臣秀吉の馬印「千成瓢箪」



椿神明社



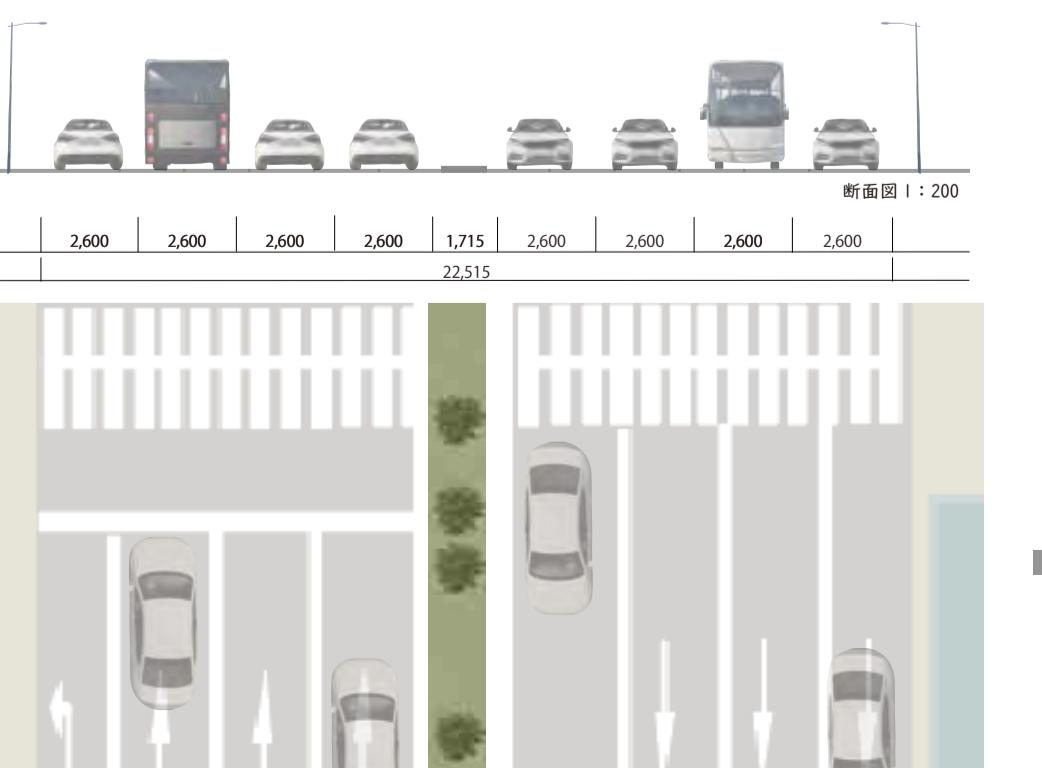
駅西銀座商店街
昭和の雰囲気が残っている



中村遊郭の建物

5. 現在の駅前広場と道路空間

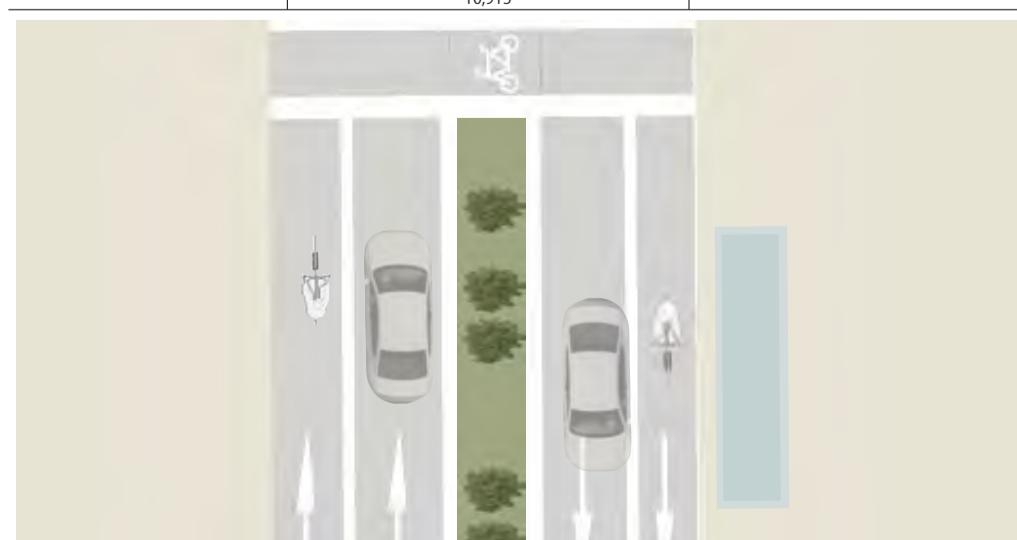
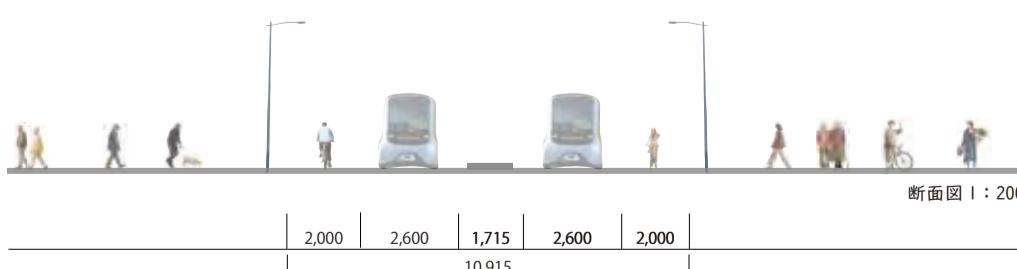
現在は車やタクシーが中心となった駅前広場になってしまっており、広幅員の車道や通過交通が優先されている。そのため人の滞留空間が機能していないことから人の気配や賑わいが感じにくい環境が形成されている。





未来の駅前広場

本計画では、自動運転技術の発展により、近い将来、交通流の円滑化や渋滞の緩和が期待されている。駅前道路の車線数の減少およびタクシープール、バスターミナルの縮小により、車社会から人を中心の駅前広場を形成する。



駅西らしさであるレトロな雰囲気を残すと共にリニア空間があることで新たな場所も加わり **未来 + 現代 + 過去** の時空を軸とし、駅前広場空間に表現している

6. 時空を辿る駅前空間

昔ながらの空気感

居酒屋街が広がっていることからサラリーマンの姿が多く見られるエリアである。そこで駅前広場にも居酒屋街の延長となる空間を設け、駅西らしさを感じられる場とした。これは、現在も残る昭和な界隈性を駅前へとつなげる試みであり、現代的な発展と混在する駅西らしさこそがこの地域の魅力だと考える。



交わる中心

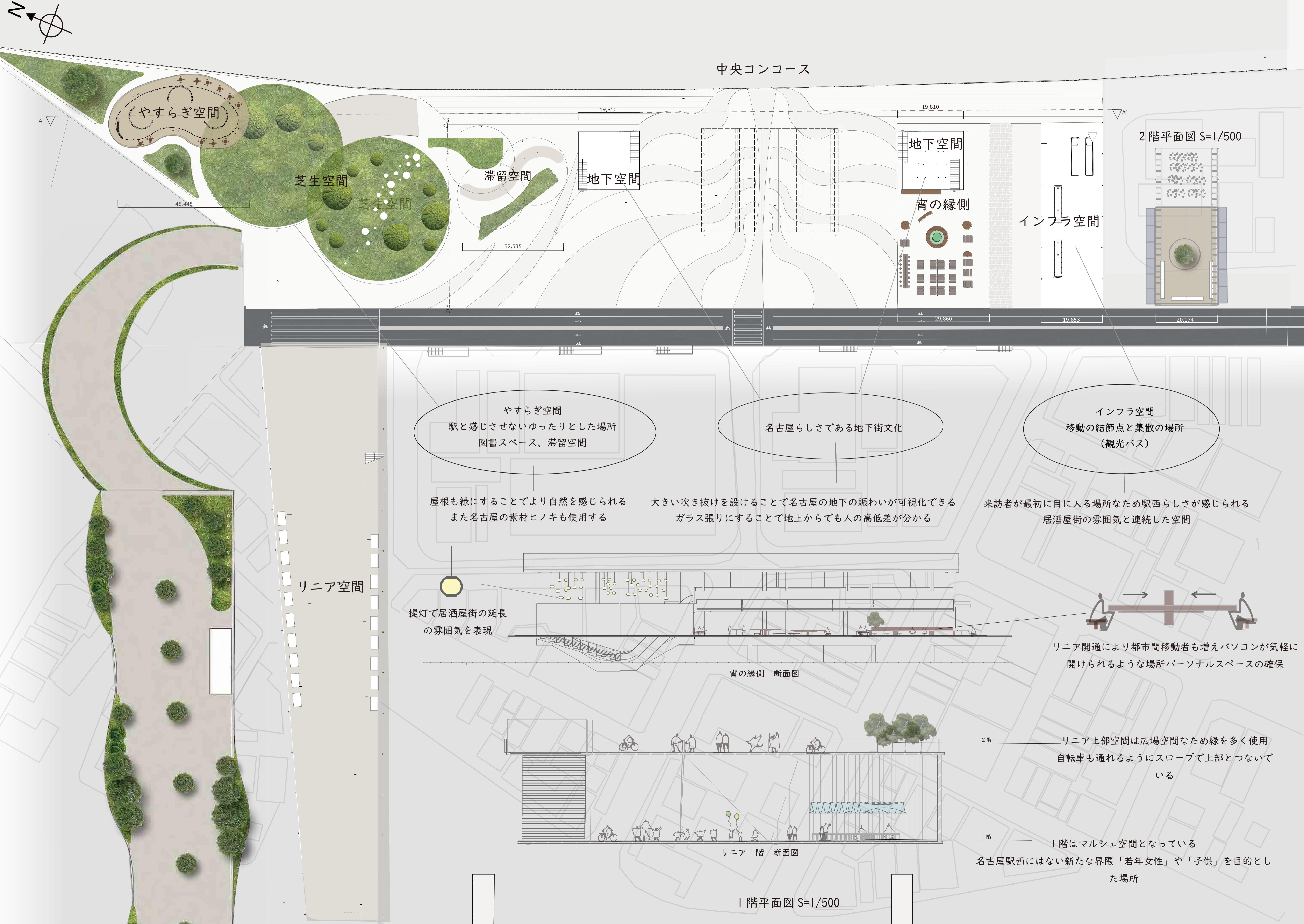
中央コンコースは多くの人が街へと踏み出す場所である。また駅西らしい懐かしさを感じる雰囲気と未来に開かれた街が交わる中心である。名古屋城を想起される屋根を設けることで観光客を含め、誰もが名古屋しさを感じられる象徴性をもたらしている。



未来に開かれた街

このエリアは塾や専門学校が多く、学生の利用が多く見られたことから学生が滞在できる空間を設計した。さらに名古屋駅西側にはない界隈、若年女性や子供もターゲットとしたマルシェや緑の空間を設けている。リニア開通により昔ながらの空気感とは対照的な未来への空間へとした。

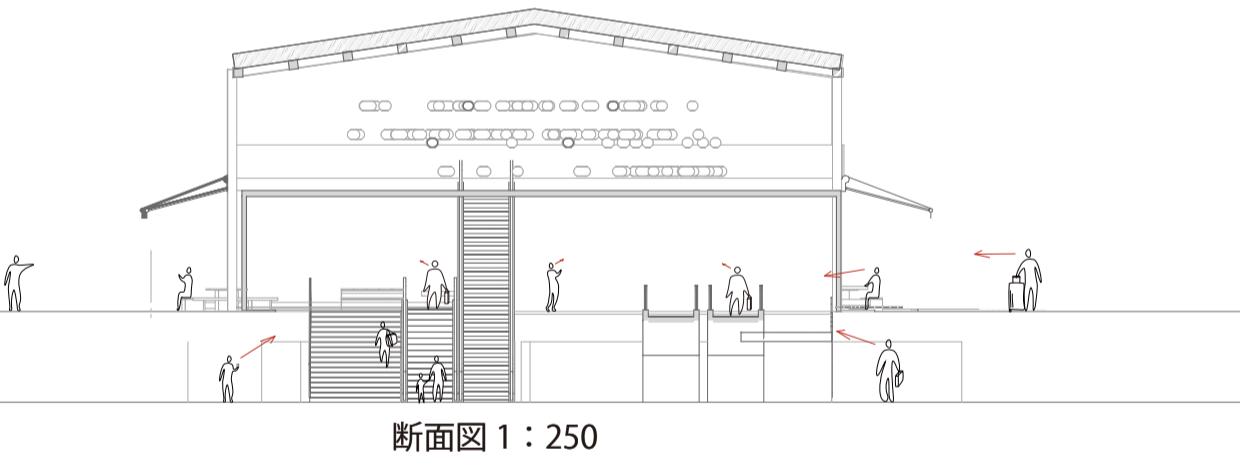






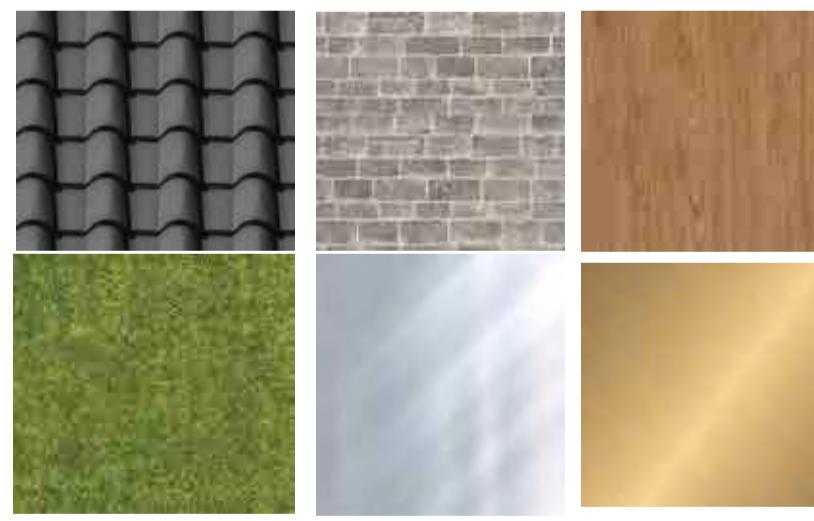
地下街文化

名古屋駅は地下が発達していることにより地下の賑わいが地上からも可視化できるよう大きな吹き抜けを2つも設けた。またガラス張りのすることで地下に昇降する人たちを周りから見ることができる。



名古屋の素材

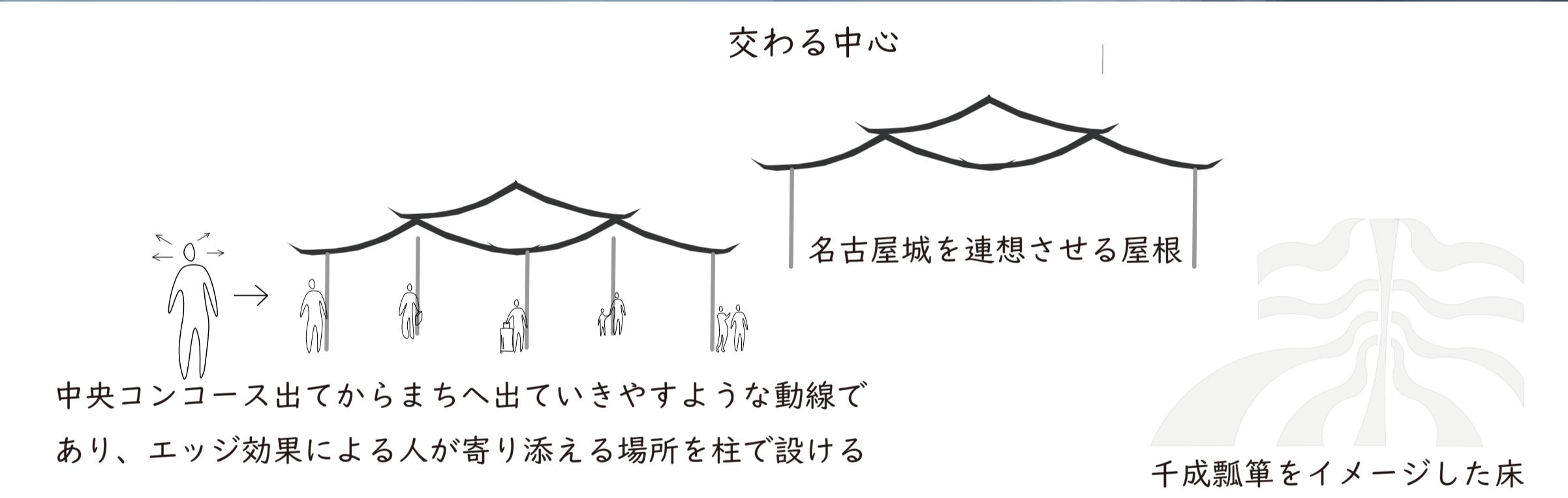
秀吉や椿神明社から連想させる「木質」「金色」「瓦屋根」を活かした素材を取り入れる



学生やパソコン作業している人、少し休憩する人といった様々な用途がある

交わる中心

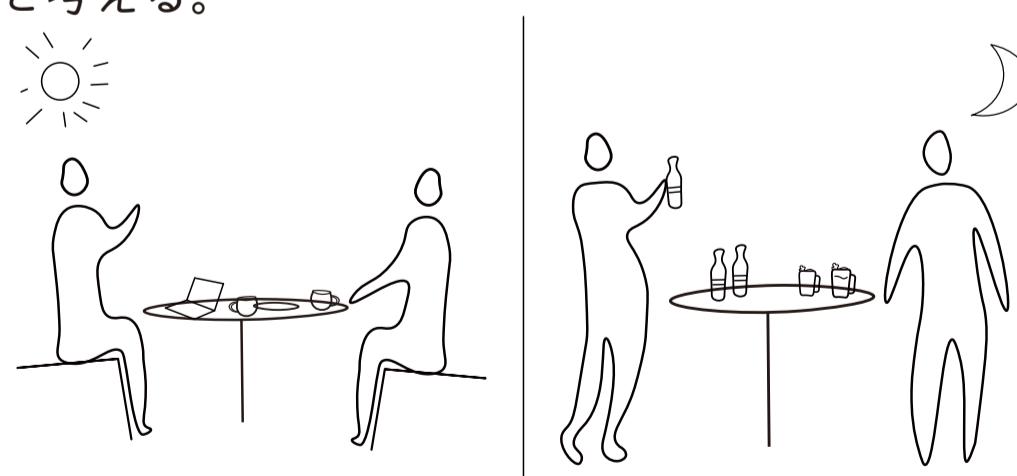
夜の全体パース



昔ながらの空気感

居酒屋の延長を連想させる提灯と居酒屋のような机の配置にした。現在も残っているサラリーマンの界隈性を失わないような場所も必要であると考える。

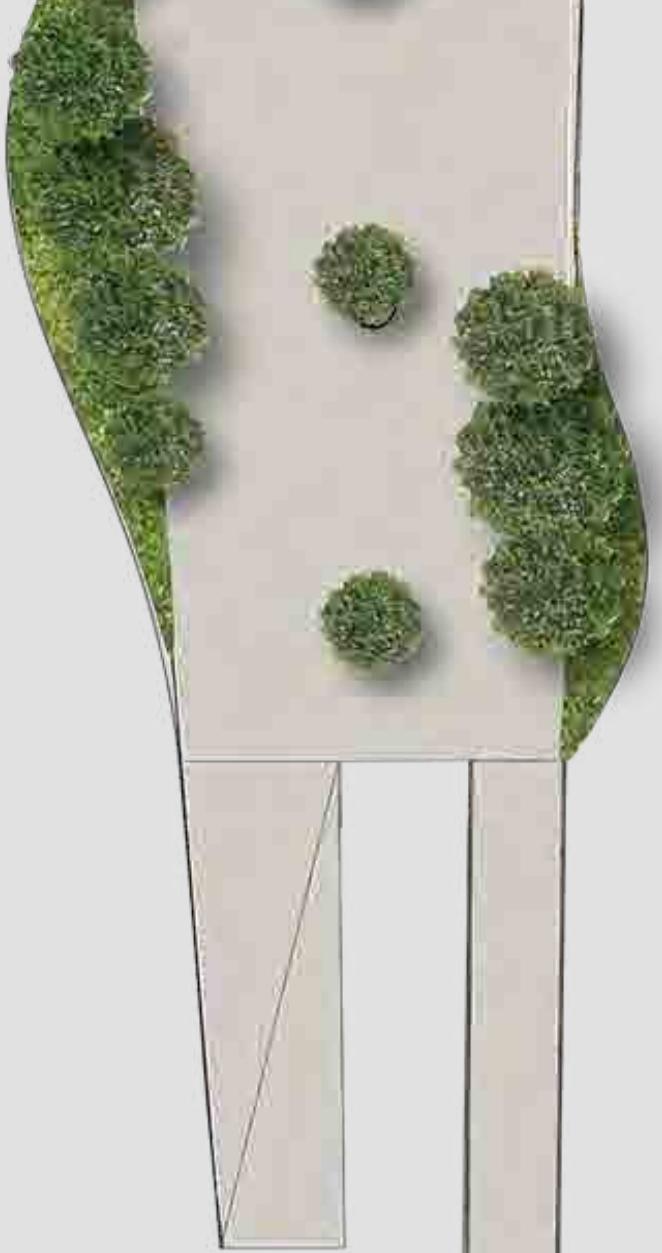
- 昼→パソコン作業や学習が可能な滞在スペース
- 夜→居酒屋街の延長として外で座れるような場所へ



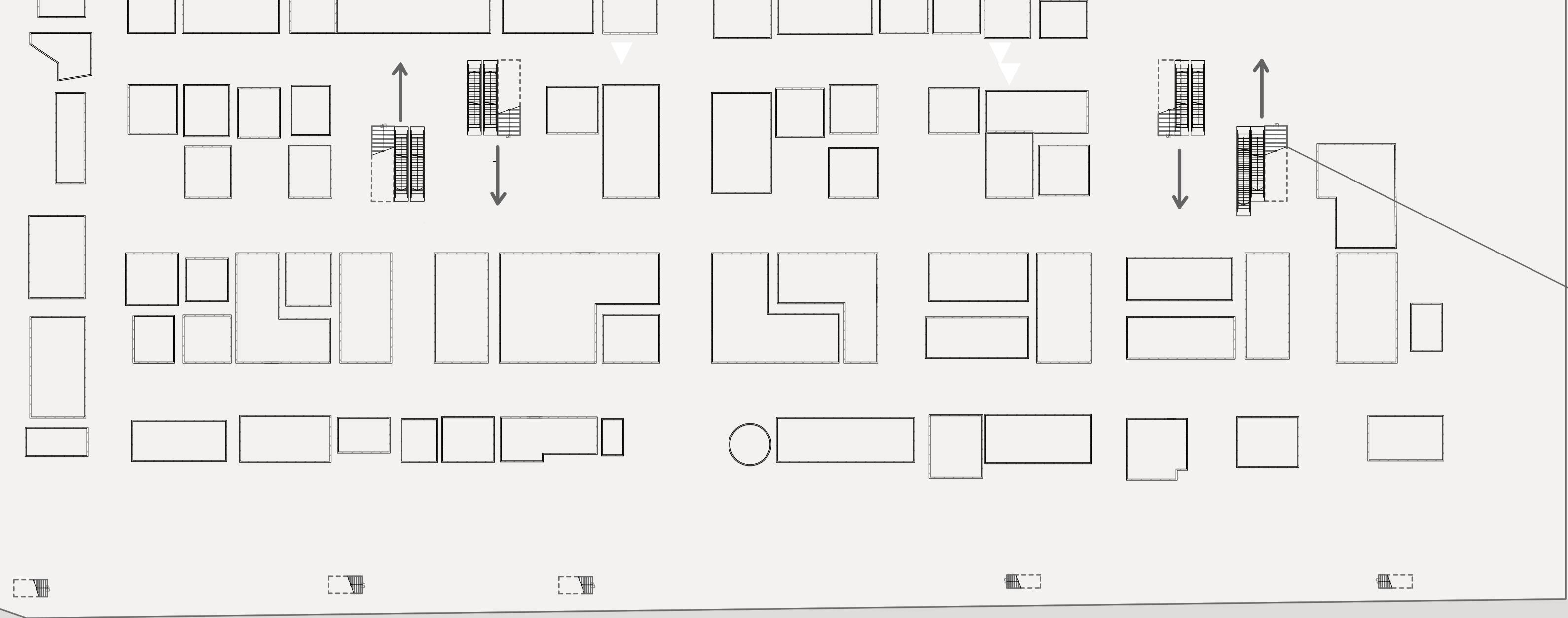
未来に開かれたまち

誘導するデザインは夜になるとライトアップし、日中とでは雰囲気が変化する





2階平面図 S=1/500



地下平面図 S=1/500

地下の配置、雰囲気はそのまま残す
2つの吹き抜け空間を活かすために地下の
賑わいが可視化できるよう、店舗が上から
見えるようにする



緑の空間

子供連れを対象に緑の遊び空間を設けた芝生空間
傾斜によって人の居方が変わる

遊び

地下空間

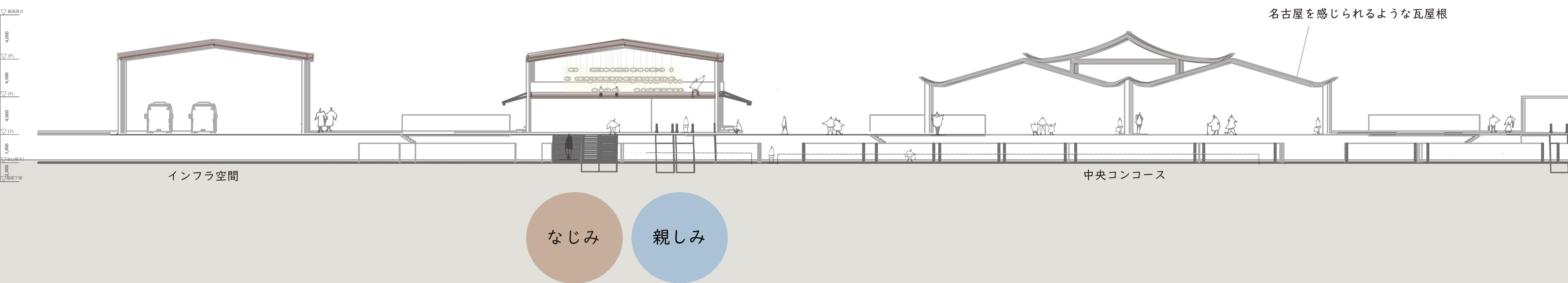
居酒屋街であることから地元の雰囲気が根付いているため
居酒屋の延長として提灯から雰囲気が感じられる
中央コンコースから移動しやすい

親しみ

リニア上部

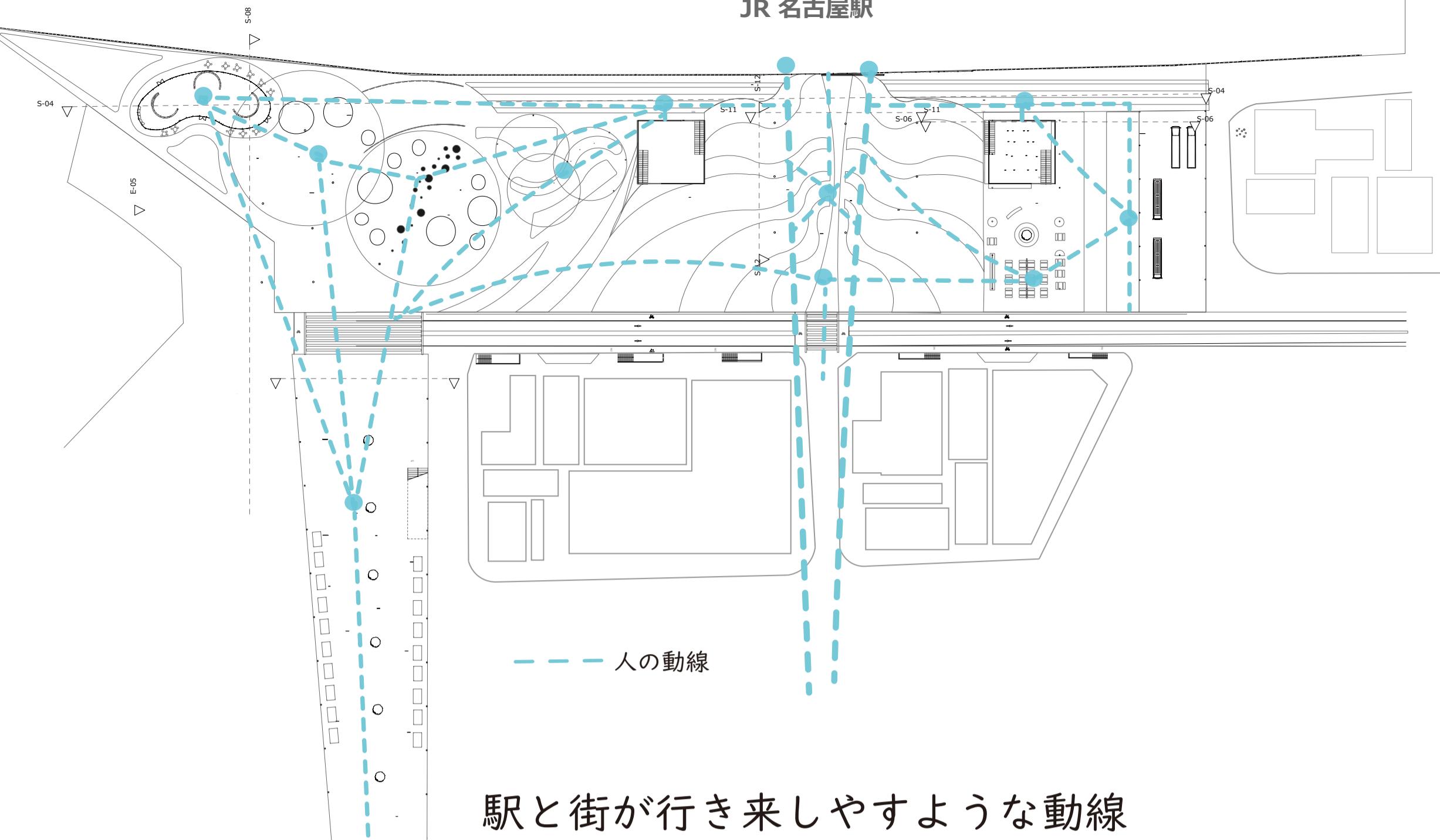
自転車や歩行者のための場所リニア駅上部空間
1階はマルシェの機能

眺める



なじみ

親しみ



リニア上部空間は歩行者だけではなく自転車利用者も上階へ行くことができるようスロープで繋げている



名古屋駅西側にはない子供連れをターゲットにした場所である
夜は緑と光で日中とは雰囲気が異なる

B-B '立面図 S=1/100'



やすらぎ

やすらぎ空間

駅の隅にゆったりと一息つける場所やすらぎ空間
小さい図書スペースもありパソコン作業の滞在スペースにもなる

なじみ

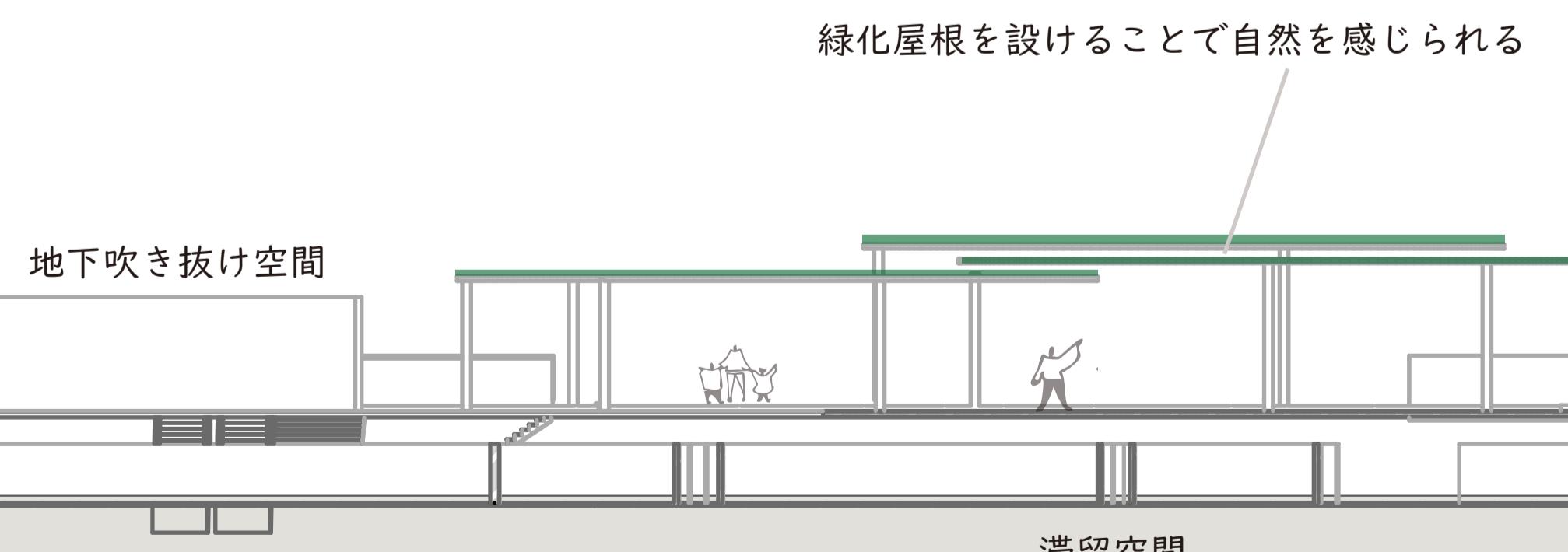
なじみ

眺める

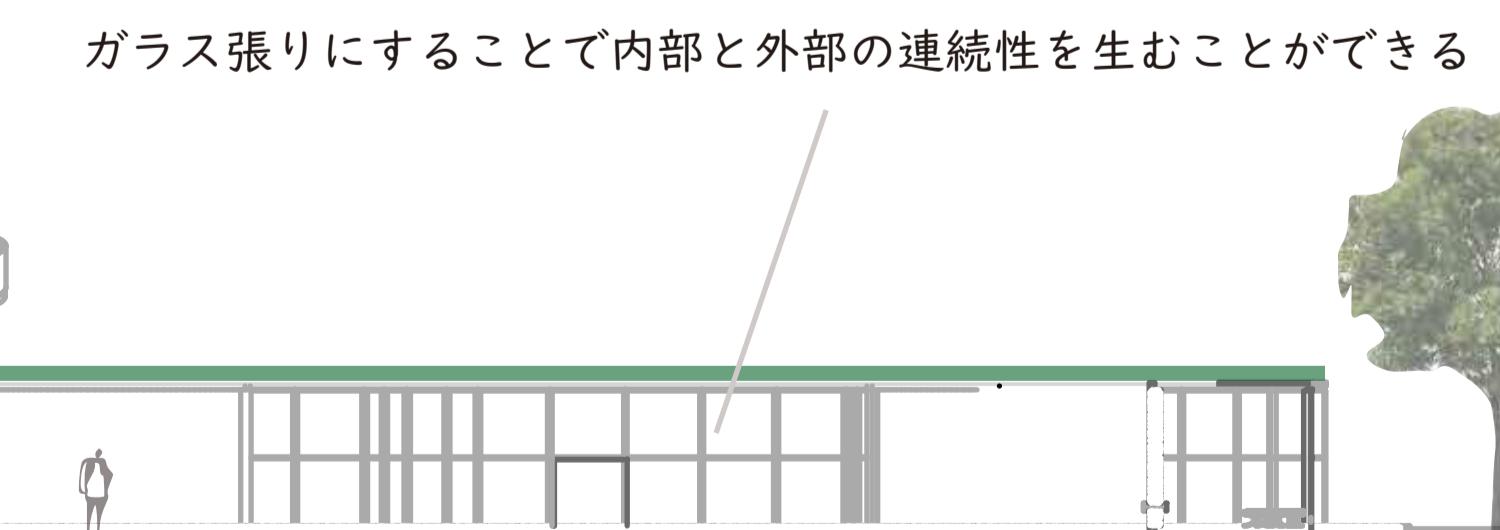
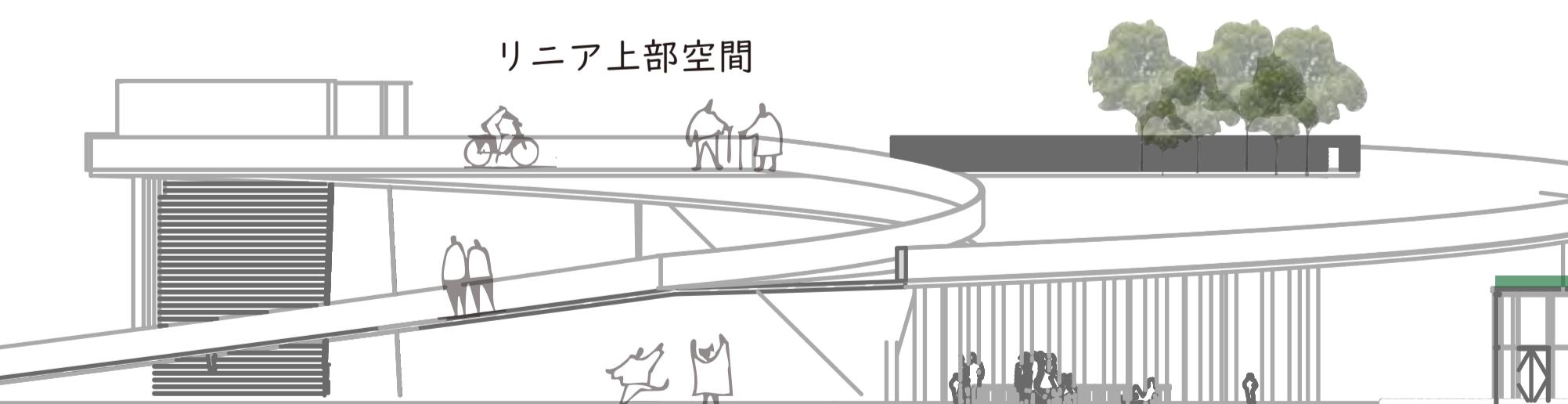
リニア上部から駅前広場を見た景色
両サイドから座れるようなベンチにすることで多くの
人が座れる

宵の縁側

「ヒノキ」×「木格子」=名古屋の歴史的建築イメージ
名古屋らしさである地下街文化を活かし地下の賑わいが感じられる
吹き抜けである。新幹線も一望できる



緑化屋根を設けることで自然を感じられる



遊び

眺める

やすらぎ

A-A '断面図 S = 1 / 200'